

2018年度第3四半期 決算説明会資料

JT Group CFO 見浪 直博

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。
※用語の定義については、スライド15、16に記載しております。

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・ニーズの変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等

海外たばこのプライシング効果が牽引し、全社為替一定調整後営業利益は増益

(億円, %)

為替一定ベース	2018年1-9月期	vs. 2017
調整後営業利益	5,307	+9.2%
財務報告ベース		
売上収益	16,758	+5.2%
調整後営業利益	5,110	+5.1%
営業利益	4,771	+1.6%
四半期利益	3,327	-0.3%

為替一定調整後営業利益

海外たばこ事業：力強い成長

国内たばこ事業：定価改定前の需要増で小幅な減益

財務報告ベース：為替の不利な影響を受ける

・ 売上収益

海外たばこ事業：買収効果に伴う数量増・プライシング

国内たばこ事業：定価改定前需要増・RRP売上収益増

・ 調整後営業利益

為替影響：-197億円

・ 営業利益、四半期利益

買収に係る償却費の増加

前年の一時的な増益（減損損失戻入益）の影響

金融費用の増加（四半期利益に影響）

為替一定調整後営業利益を上方修正、 不利な為替影響に伴い財務報告ベースの見込は下方修正

(億円, %)

為替一定ベース	2018年 修正見込	対前回見込 増減	vs. 2017
調整後営業利益	6,240	+170	+6.6%
財務報告ベース			
売上収益	21,900	-500	+2.4%
調整後営業利益	5,750	-110	-1.8%
営業利益	5,320	-90	-5.2%
当期利益	3,700	-70	-5.7%

前回見込からの主な変更点

- 海外たばこ事業
 - 底堅い総需要
 - 追加的なプライシングの織り込み
 - 為替前提（ネガティブ方向へ）
- 国内たばこ事業
 - 紙巻販売数量上方修正
 - Ploom TECH販売数量下方修正

トータル・シェアは回復基調

【紙巻実績】

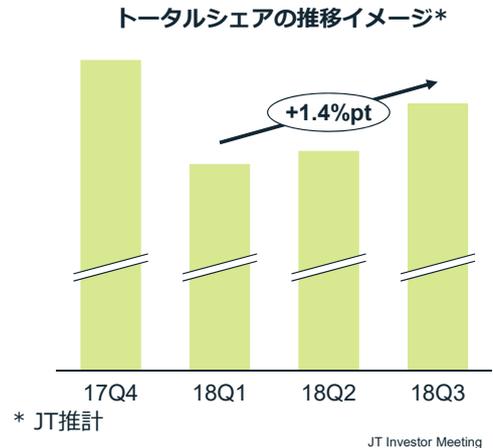
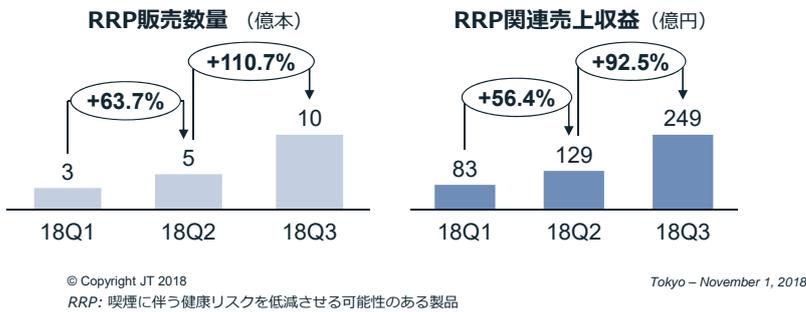
- 販売数量は減少も、シェア・モメンタム確立
- 5ヶ月連続でシェア増

【RRP実績】

- RRP販売数量、RRP関連売上収益は引き続き伸長

【トータル・シェア】

- 回復基調
- RRP：成長の柱として注力
- 紙巻：圧倒的シェアNo.1ポジションの強化



RRP販売数量を見直すが、通期利益見込は変更なし

【2018年販売数量前提】



紙巻・RRPを合わせたたばこ総需要は、3%台半ばの減少
(前回見込：約4%の減少)

【今後のたばこ市場について】

- たばこ総需要は以下の要因の見極めが必要
 - 定価改定影響
 - 受動喫煙防止対策に関する議論の影響
 - RRP市場の足もとの成長は鈍化しているが、中長期的にはRRPのシェアが上昇する見立てに変更なし
 - 各社新製品の投入と積極的な販促投資
 - 受動喫煙規制
 - 2020年末までには市場占有率30%到達の可能性(変更なし)
- 引き続き優先的な資源配分を実施

【通期利益見込】

- 調整後営業利益は変更なし(2,020億円)
 - (+) 紙巻数量の上方修正、コスト削減
 - (-) Ploom TECH数量の下方修正

Ploom TECH成長加速に向けて

- RRPにおける将来のリーディングポジション獲得には、低温加熱カテゴリーの確立が必須
- JTが提供する低温加熱型製品の特長はお客様ニーズに合致しており、ポテンシャルは高い

Ploom TECHがポテンシャルに達していない要因

対応策

- 低温加熱型製品のベネフィットをお客様に十分に伝えきれていない



- お客様とのコミュニケーションの更なる推進
 - 体験機会の提供を通じてベネフィットを実感していただく

- ベネフィットを立証する調査・研究結果の発信

- 商品ラインナップの拡充

- デバイスのカラーバリエーション

- ピアニッシモ・ブランドのカプセル投入

- 来年Q1中に更にSKU拡充

- 吸い応えのあるPloom TECH+の投入

周囲への配慮 場所不便の軽減 健康懸念物質低減の可能性

- お客様の多様な嗜好に答えられていない



低温加熱型 Ploom TECH+ と高温加熱型 Ploom S を2019年に投入 多彩なポートフォリオが実現

- お客様へ多様な選択肢を提供：ポートフォリオ戦略の実行へ

Ploom TECH（低温加熱型）：高いユーザビリティとにおいの少なさ、クリアなたばこの味わい

Ploom TECH+（低温加熱型）：ユーザビリティとにおいの少なさに加え、吸い応えをお求めのお客様を新たに獲得

Ploom S（高温加熱型）：高温加熱市場で競合からのシェア獲得

- Ploom TECH+、Ploom S 販売概要

- 発売時期：2019年3月までに投入

当面は、ラインナップ拡充を図るPloom TECHへリソースを集中

- 販売チャネル：オンライン、Ploom Shopで開始

積極的な販促投資を実施

両製品とも計画的に販売エリアを拡大し、2019年中の全国拡販を目指す

2019

pbom
TECH



驚くほど、クリーンで手軽。
カジュアルに楽しむ。

pbom
TECH+



クリーン、なのにパワフル。
低温に、吸いごたえをプラス。

pbom S



立ち上がる、たばこ葉のうまみ。
こだわりの一服。

低温加熱型



高温加熱型



海外たばこ事業（実績・見込）

堅調なビジネス・モメンタムを反映し、為替一定調整後営業利益を上方修正

【実績】

- ・ ビジネス・モメンタム堅調で力強い利益成長
- ・ 第2四半期に引き続き、プライシングが牽引

調整後営業利益ロードマップ
（為替一定ベース）



*製造コスト、販促投資、販管費等を含む

【修正見込】

- ・ 前回見込より、為替一定調整後営業利益を上方修正
3,600MMUSD → **3,770MMUSD**
（対前年増減率 **+20.1%**）
- ・ 底堅い総需要と追加的なプライシングが牽引
- ・ 一部市場には不透明性・不確実性残る
今期の業績はマネージ可能も状況を注視
- ・ 前年下期に発生した一時的な損失を除けば
対前年で約13%の成長
- ・ バングラデシュでの買収は年内の完了を想定
（修正見込には含まれない）

ネガティブな為替影響が下期に拡大する見込み

- 前回見込より、財務報告ベース調整後営業利益を下方修正
3,820億円 → **3,730億円 (-90億円)**
- 主要な現地通貨は全て前回見込時点のレートより弱含む
- 対前年比較では、調整後営業利益に対して
 - 2018年1-6月期の為替影響：-65億円
 - 2018年7-12月期の為替影響：**約-430億円**（7-9月期実績：-132億円、10-12月：約-300億円）

対ドルレートの推移

	2017年 レート	2018年 前回見込レート	2018年 今回見込レート	前年/ 今回見込 増減率	前回見込/ 今回見込 増減率
USD/IRR	38,811	44,100	66,000	41.2%安	33.2%安
USD/TRY	3.64	4.40	5.00	27.1%安	12.0%安
USD/GBP	0.78	0.71	0.75	3.6%高	5.3%安
USD/RUB	58.35	60.00	63.00	7.4%安	4.8%安

JTGのイラン市場での外貨調達にはEURのみで、EUR/IRR換算から上記表のUSD/IRRを算出

医薬事業・加工食品事業（実績・見込）

医薬事業：実績好調、通期利益見込に変更なし

加工食品事業：原材料費高騰に伴い減益、通期見込下方修正

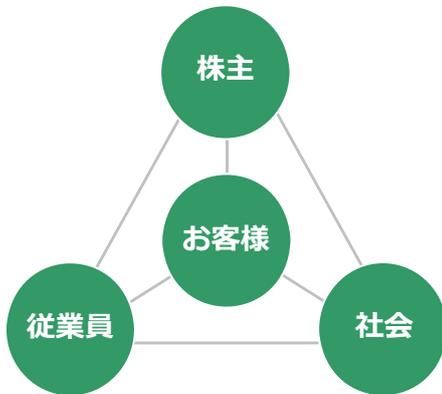
【医薬事業】

- 1-9月実績は好調
- 利益見込に**変更なし**
（調整後営業利益：**250億円**）
- Gilead Sciences, Inc.との協議状況は進捗があればお知らせする

【加工食品事業】

- 1-9月実績は原材料費高騰に伴い減益
- 利益見込は**5億円下方修正**
（調整後営業利益：**50億円**）
- トップライン成長に向けた体制構築

強固な事業基盤を確認



- ボラタイルな事業環境の中、堅調な全社業績
 - 事業基盤が強固であることを再確認
 - 環境変化に柔軟に対応
- 通期目標の達成を目指しつつ、来年度以降の事業成長に向け、必要な取り組みを着実に推進
- 一株当たり配当金は当初予想150円から変更なし

(このスライドは空白です)

<用語の定義>

調整後営業利益：	調整後営業利益 = 営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等
為替一定 調整後営業利益：	海外たばこ事業における当期の調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドル、ドル対円の為替レートを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標
四半期利益・当期利益：	親会社の所有者に帰属する四半期利益・当期利益
Reduced-Risk Products： (RRP)	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
GFB： (Global Flagship Brands)	2018年よりWinston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランドに変更（2017年まではWinston、Camel、MEVIUS、LD、B&H、Glamour、Sobranie、Silk Cut、Natural American Spiritの9ブランド）
総販売数量： (海外たばこ事業)	水たばこ/Reduced-Risk Products/製造受託を除き、Fine Cut/Cigar/Pipe/Snus/Kretekを含む
自社たばこ製品売上収益： (海外たばこ事業)	物流事業、製造受託等を除き、水たばこ、Reduced-Risk Productsの売上込み

<用語の定義>

為替一定ドルベース 自社たばこ製品売上収益/ 調整後営業利益： (海外たばこ事業)	当期の自社たばこ製品売上収益/調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドルの為替レートを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標
たばこ総需要： (国内たばこ事業)	日本市場全体におけるたばこの販売本数（Reduced-Risk Products等を含む）
紙巻総需要： (国内たばこ事業)	日本市場全体における紙巻たばこの販売本数（Reduced-Risk Products等は含まない）
紙巻販売数量： (国内たばこ事業)	国内免税販売/中国事業/Reduced-Risk Productsを除く、JT紙巻たばこの販売本数
RRP販売数量： (国内たばこ事業)	1パック当たり紙巻たばこ20本として換算（デバイス/関連アクセサリ等は含まない）
自社たばこ製品売上収益： (国内たばこ事業)	輸入たばこ配送手数料収益等を除き、国内免税販売/中国事業/Reduced-Risk Products関連の売上を含む
RRP関連売上収益： (国内たばこ事業)	国内たばこ事業における自社たばこ製品売上収益の内訳としての、デバイス/関連アクセサリ等を含む Reduced-Risk Productsの売上